



警察官

先輩職員インタビュー

「福島県の治安を守る最前線」

所属 会津若松警察署 刑事第二課

● これまでの経歴(所属年度)

H25 福島県警察学校〔初任科短期課程〕
H25~H26 南会津警察署 地域交通課
H27~H30 福島県警察機動隊
H31~ 会津若松警察署 刑事第二課

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 私は、暴力団構成員による犯罪を中心に、薬物事件、特殊詐欺事件等の捜査を担当しています。いずれも組織性があり、違法性を認識した上で捜査の目をかいくぐろうとする、悪質で狡猾な被疑者が相手です。被疑者らの妨害工作や罪証隠滅などの困難を乗り越えて、被疑者を逮捕し、粘り強い取調べと綿密な裏付捜査を徹底して起訴まで追い込んだときの達成感は、何ものにも代えがたいものです。



↑ 現場臨場の様子

Q. 警察官として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 福島県警察官として私が目標としていることは、「福島県から一つでも多くの犯罪をなくす」ということです。私の相手は、罪を犯すことになんら罪悪感を感じる事のない卑劣な被疑者たちです。積極的な防犯活動により犯罪を未然に防ぐことはもちろん、警察官である私にしかできないことは、捜査によって被疑者たちを法の下に暴き出すことであり、福島県で理不尽に苦しむ被害者を一人でも減らすことが私の目標です。



Q. 仕事する上で心がけていること。

A. 私が仕事をする上で心掛けていることは、「誰にも負けない」という気持ちです。警察官として、被疑者に負けないことは当然ですが、上司、同僚は心強い味方であると同時にライバルですし、何より、楽をしたい、逃げたいという自分の心は最大の敵ですから、常にそれらと闘う意識を強く持つように心掛けています。

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、
どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「凡事徹底」

「苦しい、疲れた、もうやめた、では人の命は救えない」

「犯罪捜査に休み無し」

「迷ったときは上り坂」



↑ 取調べの様子

Q. 「凡事徹底」について教えてください。

A. 特殊な職業に思われるかもしれませんが、警察官の仕事は誰にでもできると言われています。ただ、誰にでもできることを、誰にもできないレベルまでやり抜くことが難しいのであり、警察官にとってはそれが大切だと考えています。

Q. 「苦しい、疲れた、もうやめた、では人の命は救えない」について教えてください。

A. この言葉は山岳遭難が多発する南会津警察署で教わった言葉です。南会津での勤務や、その後の機動隊のレンジャー隊員として遭難者救助に従事していた際には、特に意識をしていましたが、捜査員となり、業務内容が変わった今でも、心を奮い立たせてくれる言葉です。



↑ 規制薬物発見と追及